



沼田市御中

沼田市広域モビリティ人材育成事業 最終報告資料

2026年1月8日
MONET Technologies 株式会社



MONET

Copyright © MONET Technologies Inc. All Rights Reserved.

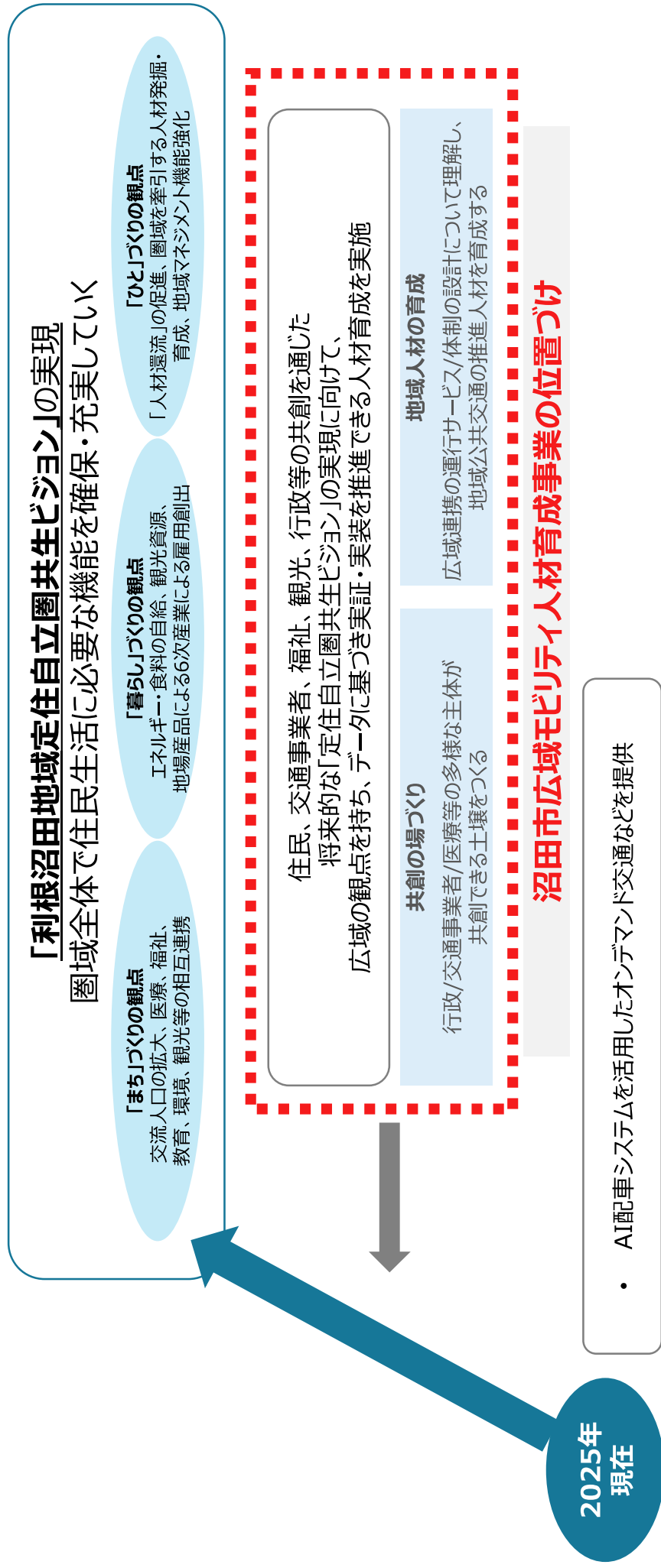
01

取組みの目的



取組みの政策上の位置づけ

本事業では一市町村に閉じない広域な公共交通サービスの視点を持つ「共創の場づくりと地域人材の育成」を実施することにより、利根沼田地域定住自立圏共生ビジョンの推進・具現化につなげる





取り組み実施の狙い

「共創」をキーワードとして、地域づくり・まちづくりを一体になって推進できる「地域モビリティプロデューサー」の育成を講義やワークショップを通じて図る

活用する
国の事業

地域交通共創モデル実証プロジェクト 人材育成事業

本事業の
目的

地域公共交通の持続可能性を高めるため、
地域の多様な関係者の「共創」により、
地域づくり・まちづくりと一体になって貢献できる
人材の育成を図る

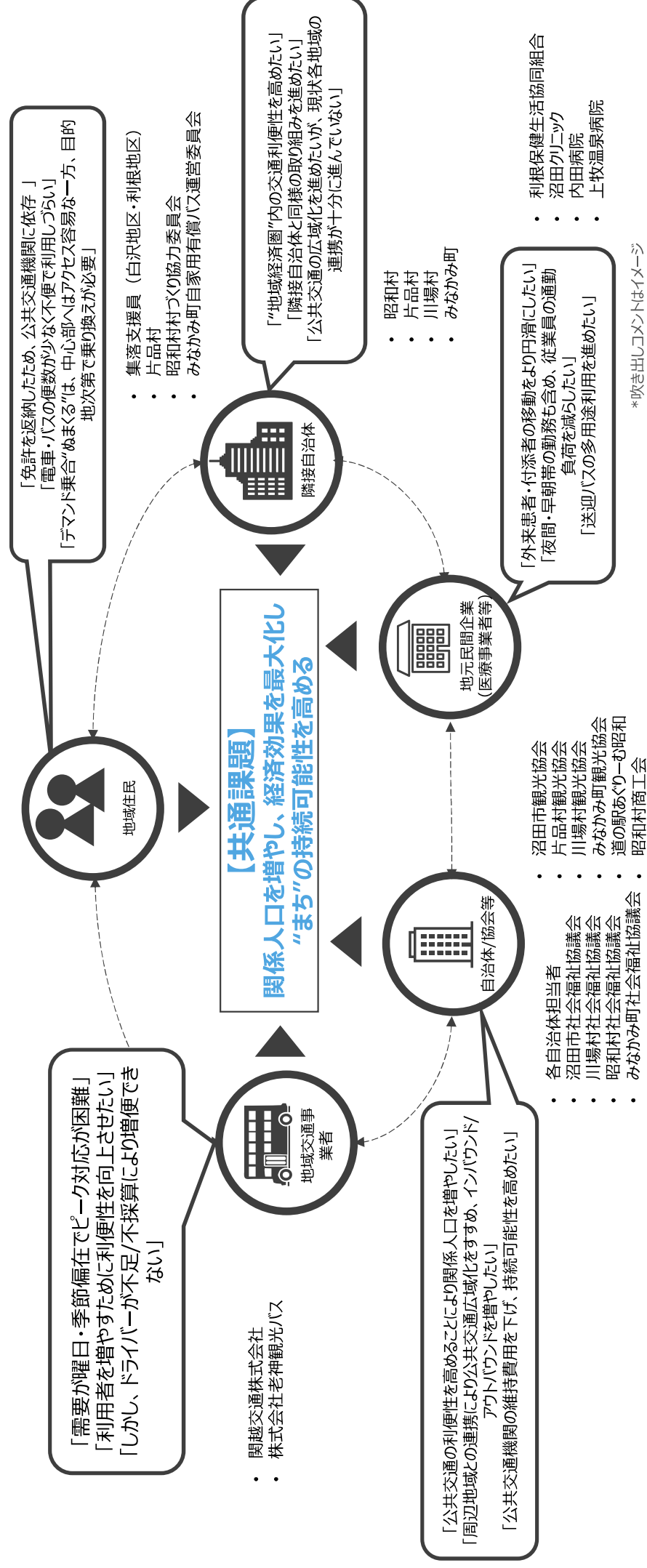
想定する
人材育成
対象者

行政担当者、交通事業者、医療・福祉関係者、地域住民のみなさま等



持続可能な公共交通事業モデル検討に必要な視点

関係人口を増やし、経済効果を最大化することで“まち”の持続可能性を高めるといふ共通課題を、各者異なる角度で見ている → 多様な関係者の「共創」の場づくりを通じて、解決策を議論する



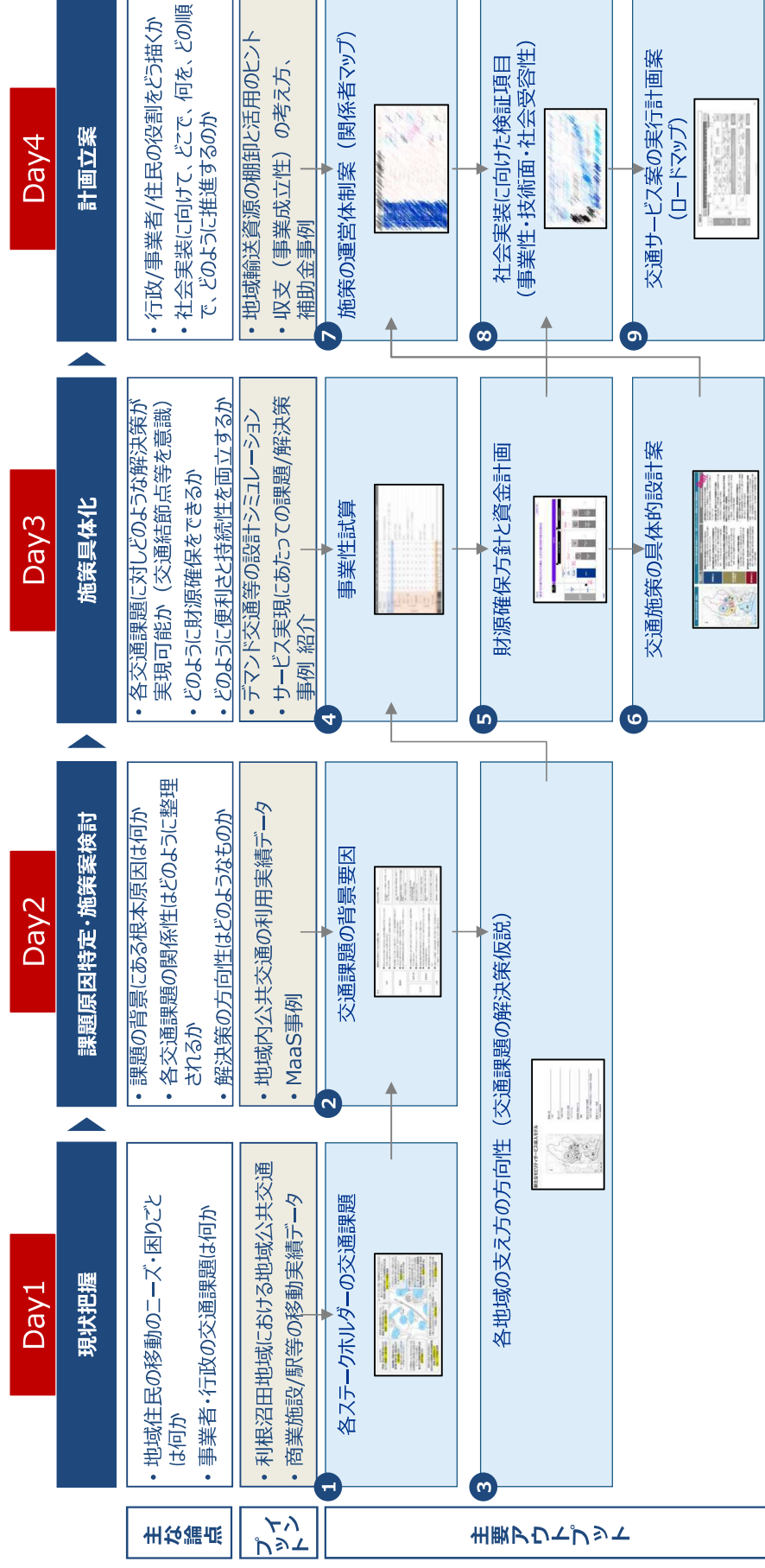
02

各講義・ワークショップの概要/結果



本事業の全体像

全4回の講義・ワークショップ（WS）を通じ、⑨交通サービス案の実行計画を立案をする場を提供し、地域の多様な関係者を巻き込んだ事業推進の経験を得ることによる、実践的なモビリティ人材育成を実施した





各WSと主要アウトプットの関係性（詳細）

各講義・ワークショップ（WS）で段階的なアウトプットをし、交通サービス案の事業検討プロセスを網羅的に実施した



数字：前頁に対応

※進行状況等に応じて、一部変更可能性あり

03

取組みのまとめ/結果



取組みのまとめ

住民・交通事業者・行政が公共交通に対する互いの課題感を理解し合うことで、推進体制の土壌を構築したさらに、データに基づく現状把握や課題抽出から施策の検討、収支・運行体制の設計、ロードマップ策定に至る一連のプロセスを実践的に経験したことによって、持続可能な公共交通網の構築を担う地域人材を育成した

取組みの目的	実施方針/内容	結果	今後に向けての期待（ご提案）
--------	---------	----	----------------

地域公共交通を担う人材づくり	共創の場づくり <ul style="list-style-type: none">行政/交通事業者/医療、等の多様な主体が共創できる土壌をつくる	【実施方針】 <ul style="list-style-type: none">多様な関係者が同じテーマを議論することで共創型の学びの場を醸成インプット（講義）とアウトプット（WS）を組み合せ、知識の習得と実践的な検討を往復することで理解を深化 【実施内容】 <ul style="list-style-type: none">第1回：現状把握<ul style="list-style-type: none">地域住民/事業者/行政の課題抽出第2回：課題原因特定・施策案検討<ul style="list-style-type: none">地域の需要を踏まえた交通サービス案のコンセプト/初期案の整理第3回：施策具体化<ul style="list-style-type: none">施策実施にあたっての課題/乗り越え方の検討収支構造や運行体制の検討第4回：計画立案<ul style="list-style-type: none">評価軸に基づき、各交通サービス案を評価/改善実現に向けた3カ年ロードマップ案を検討
	地域人材の育成 <ul style="list-style-type: none">広域連携の運行サービス/体制の設計について理解し、地域公共交通の推進人材を育成する	

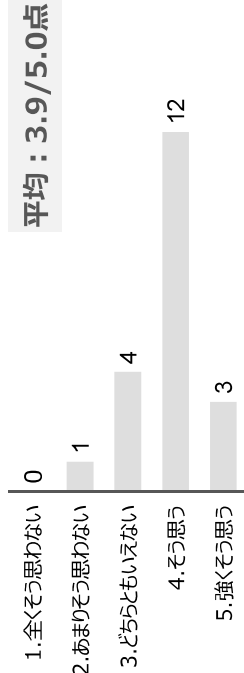
地域公共交通を担う人材づくり	共創の場づくり <ul style="list-style-type: none">一市町村に閉じない各自治体間の広域な連携強化の議論ができた共創を体現する場が形成され、多様な関係者（自治体、交通事業者、病院関係者、等）間の相互理解とネットワークが構築された	地域公共交通を共創する人的ネットワークの形成 <p>広域連携/用途横断等のサービスを実証する際に 本事業で形成できた広域な人的ネットワークを、 今後の議論の場として活用を期待</p>
	地域人材の育成 <ul style="list-style-type: none">実践的な学びを経て、推進人材育成の実施 交通に関わる様々なデータや事例を参考に 実践的な交通サービス案の事業検討プロセスを学んだ地域交通の課題感/地域住民の需要を多様な関係者間で議論し、合意形成のプロセスの経験が得られた。参加者の理解度は高く、講義/WSを通じて 交通施策を多面的に捉える視点が醸成された （※次頁にアンケート結果）	実践的な学びを経て、推進人材育成の実施 <p>本事業の参加者を地域公共交通協議会の部会 メンバー/民生委員等の地域交通の議論に参加 する人材候補として期待</p>



取組みのアンケート結果

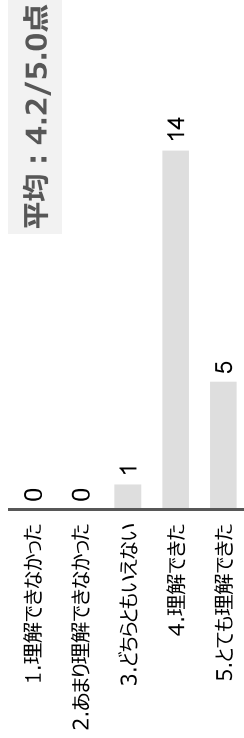
住民・交通事業者・行政が広域で課題を共有し、多様な立場からの意見交換を通じて、共創的に交通体系を検討する重要性への理解、検討方法の理解が醸成された

住民・交通事業者・行政等の複数関係者が一体となり、沼田市の公共交通体系の検討・推進を行う土壌づくりができたと思うか



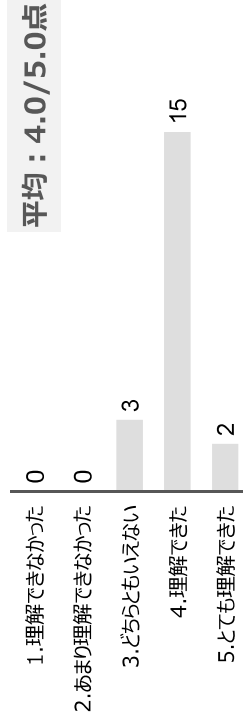
平均：3.9/5.0点

公共交通の検討には住民・交通事業者・行政等、複数関係者の巻き込みや合意形成が必要だと理解できたか



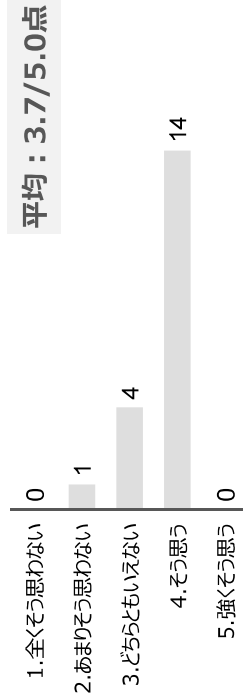
平均：4.2/5.0点

公共交通の検討・見直し方法について理解できたか



平均：4.0/5.0点

交通サービスモデル、交通サービス案等、新たな地域公共交通系の方向性を見出すことができたか



平均：3.7/5.0点

本取組み全体を通して、得られた学び、気づきや感想等（一部抜粋）

- 広域で課題が共有できたことがよかった
- 他市町村の交通事業者の方と考えることで別の視点から考えることができた。また、利根沼田管内の関係者とのつながりができた
- 交通空白地に導入する交通サービスは自治体の負担が大きくなると分かった
- 複数市町村・関係事業者等の様々な連携がないと地域交通が持続できないと分かった

*講義・WS開催後のアンケート回答の内、有効回答を基に整理（n=20）

04

参考資料：検討された交通サービス案
(事務局による補完内容含む)



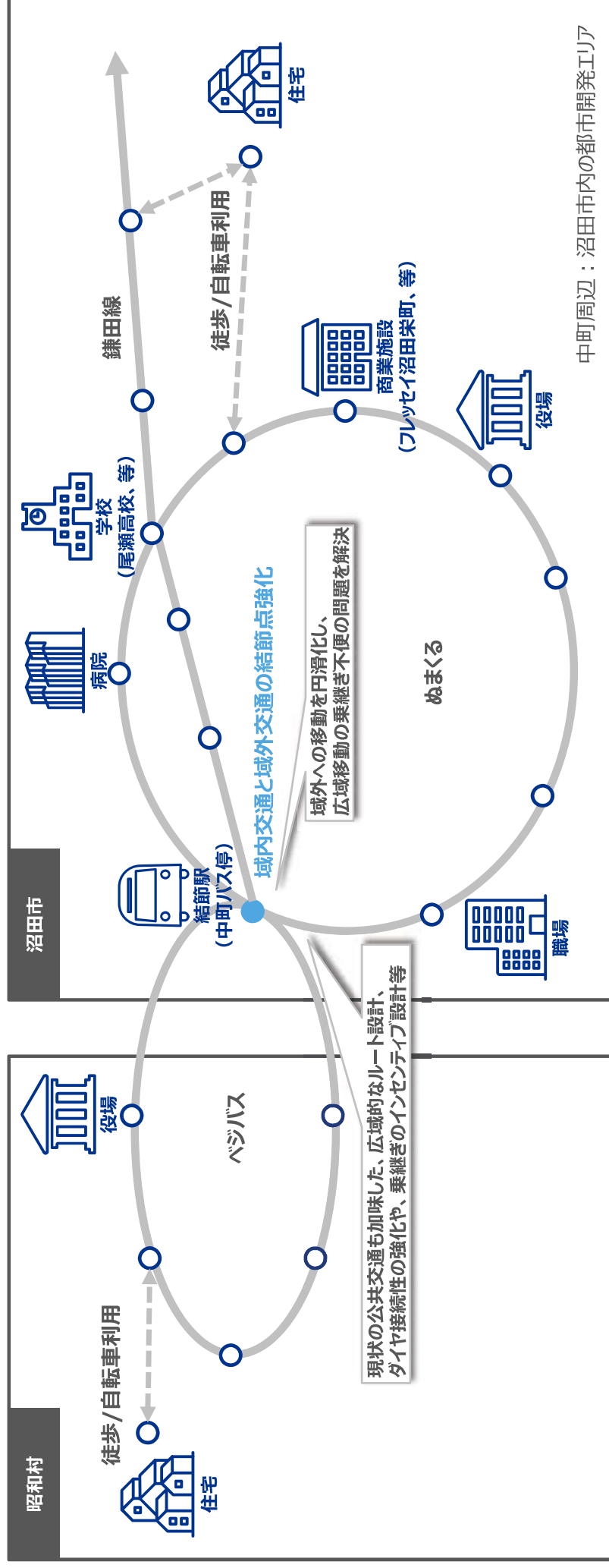
検討された交通サービス案：概念図

- ①結節点の強化
- ②用途横断
- ③新サービスの導入

ぬまくとベジバスを連携するとともに鎌田線と接続することで、沼田市内の学校に通学する昭和村在住の学生や、沼田市内に買物する昭和村在住の高齢者の移動を支える

結節点を設けることで利便性を向上させるポイント：●

デマンド交通/定時定路線での移動：—





検討された交通サービス案：運行設計

- ① 結節点の強化
- ② 用途横断
- ③ 新サービスの導入

通院、学生の通学、高齢者の買物の移動を支えるため、自治体からの委託路線として、ぬまくとベジバスを連携するとともに鎌田線と接続する交通サービスとして運行

運行設計

通院、学生の通学、高齢者の買物の移動を支えるため、ぬまくとベジバスを連携するとともに鎌田線と接続する交通サービス

利用者
利根中央病院等の通院者
尾瀬高/沼田高/利根実業高校の学生、高齢者

ルート
中町バス停でぬまくとベジバス/関越交通鎌田線を
連携させ、昭和村から利根中央病院/フレッセイ沼田栄
町までを繋ぐ

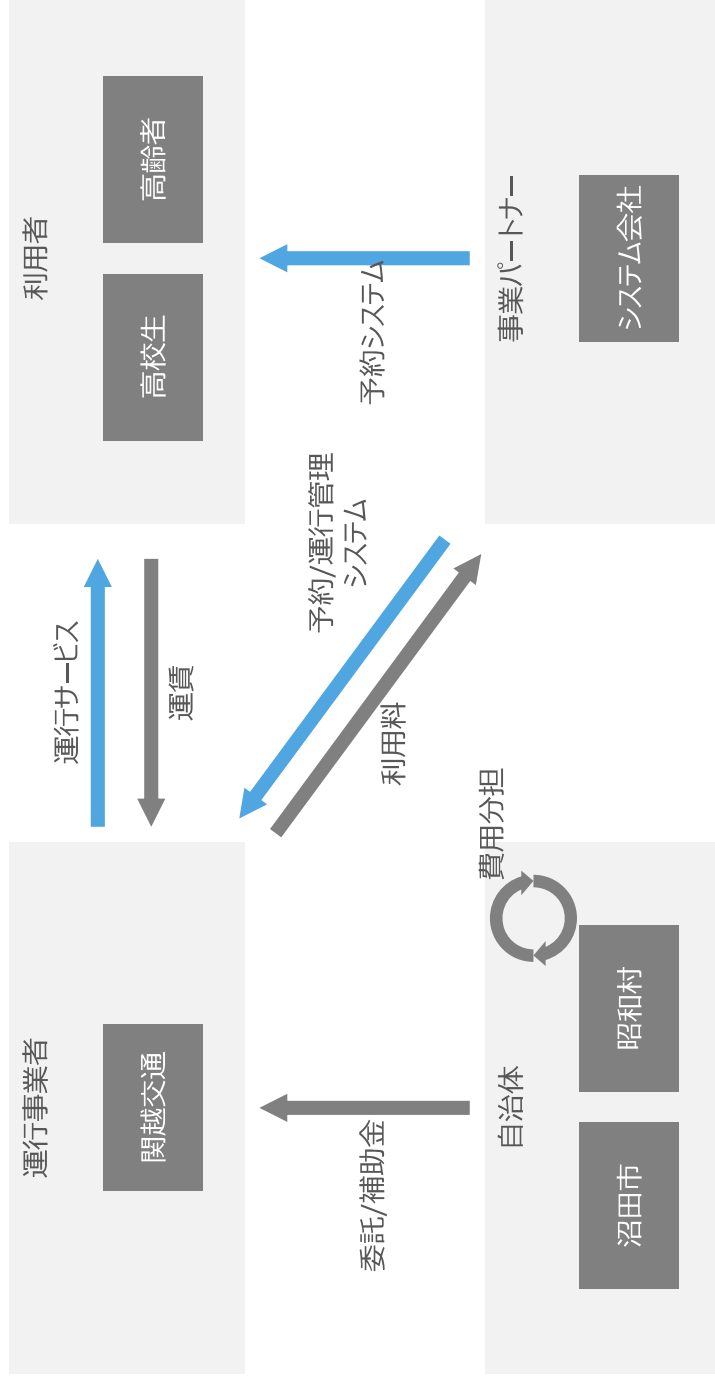
ダイヤ
学生：7:00-9:00（往）、16:00-17:00（復）
高齢者：9:00-11:00、13:00-15:00

車両
既存の関越交通バス車両

運行方式
事前予約制

運行体制

サービスの流れ → カネの流れ



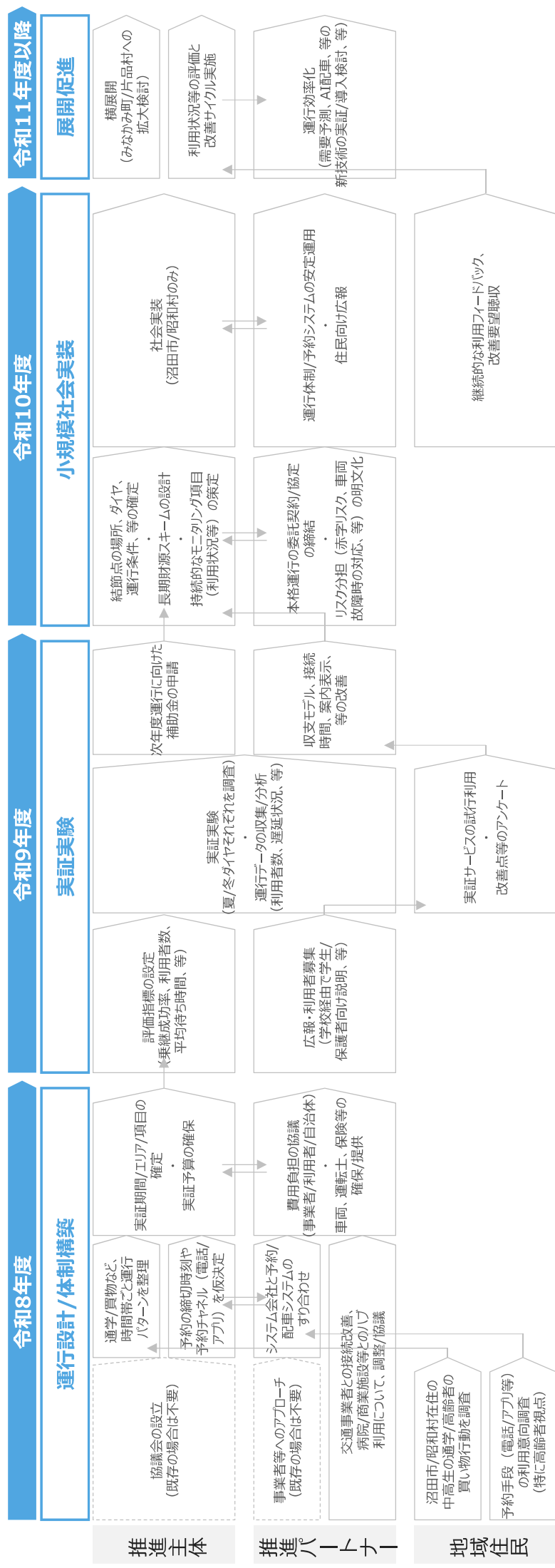
*WSIにて検討されたサービス設計/ロードマップ案を基に作成



検討された交通サービス案：ロードマップ

商業施設/交通事業者等と連携しながら令和9年度に実証実験、令和10年度に沼田市/昭和村のみで社会実装、令和11年度以降にみなみ町/片品村に横展開する形で運行範囲拡大を目指す

- ① 結節点の強化
- ② 用途横断
- ③ 新サービスの導入



*WSIにて検討されたサービス設計/ロードマップ案を基に作成

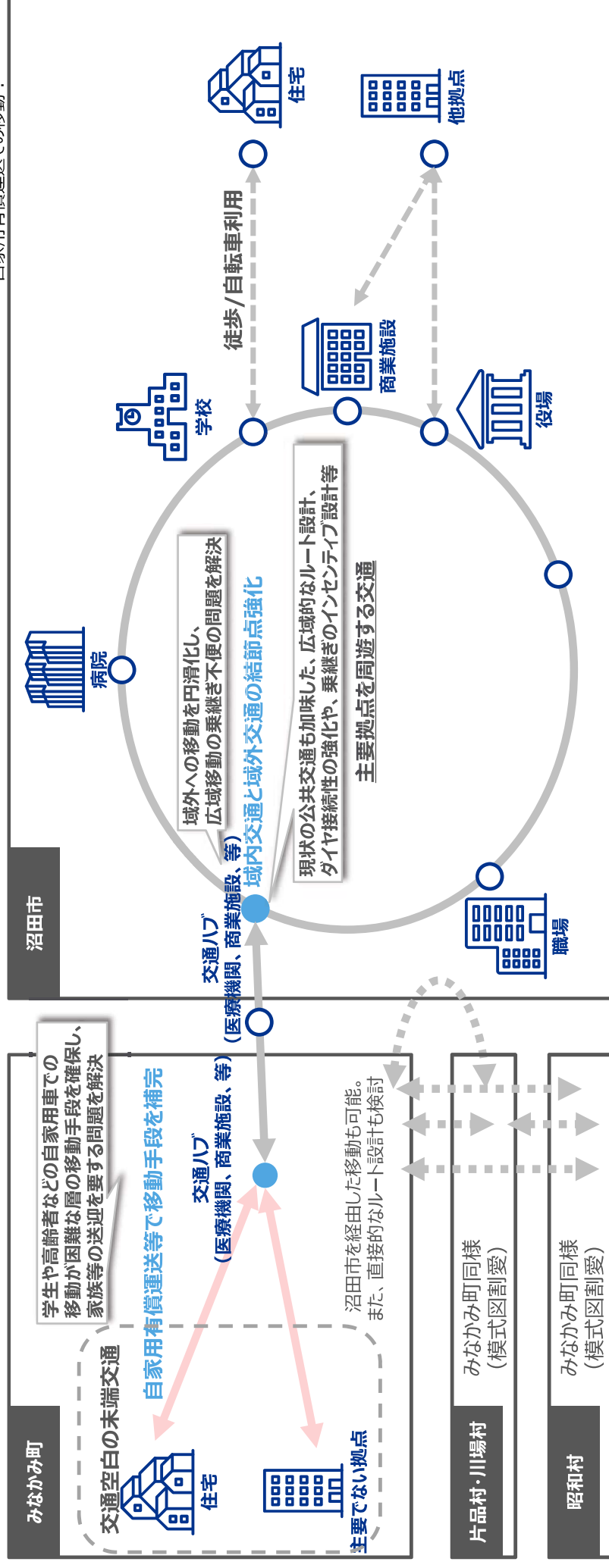


検討された交通サービス案：概念図

- ① 結節点の強化
- ② 用途横断
- ③ 新サービスの導入

各自治体の交通ハブ（医療機関、商業施設、等）に交通空白地に居住する乗客を自家用有償運送で集約し、ハブ間でデマンド交通で繋ぐことで広域的な移動を可能とする

結節点を設けることで利便性を向上させるポイント：
デマンド交通/定時定路線での移動：
自家用有償運送での移動：



*WSIにて検討されたサービス設計/ロードマップ案を基に作成
*イメージのため、大幅に簡略化しています



検討された交通サービス案：運行設計

病院やライドシェアドライバーが、交通空白地の高齢者を対象に平日の日中に自治体ハブから医療機関や商業施設へアクセス可能な交通サービスを、自治体補助金を受けて運行

運行設計

交通空白地の高齢者を対象に、平日9:00-17:00に自治体ハブから医療機関や商業施設へアクセス可能な交通サービス

独力での家用車運転ができないかつ、家族による送迎が困難な高齢者

利根沼田の交通空白地から主に沼田市の医療機関・商業施設（スーパー、ホームセンター等）まで

平日9:00-17:00（予約制）

病院送迎用車両（5-8人乗り程度）

オペレーター等を用いた完全予約制

利用者

ルート

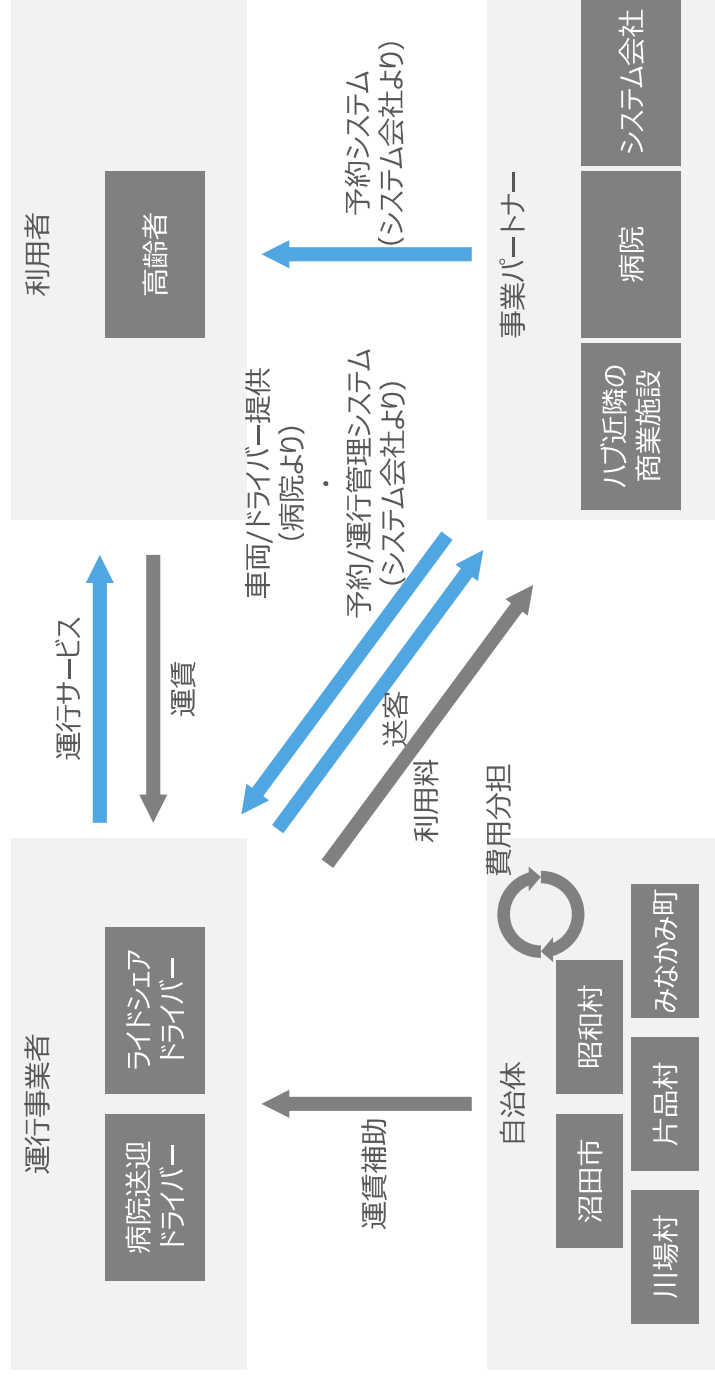
ダイヤ

車両

運行方式

運行体制

サービスの流れ → カネの流れ



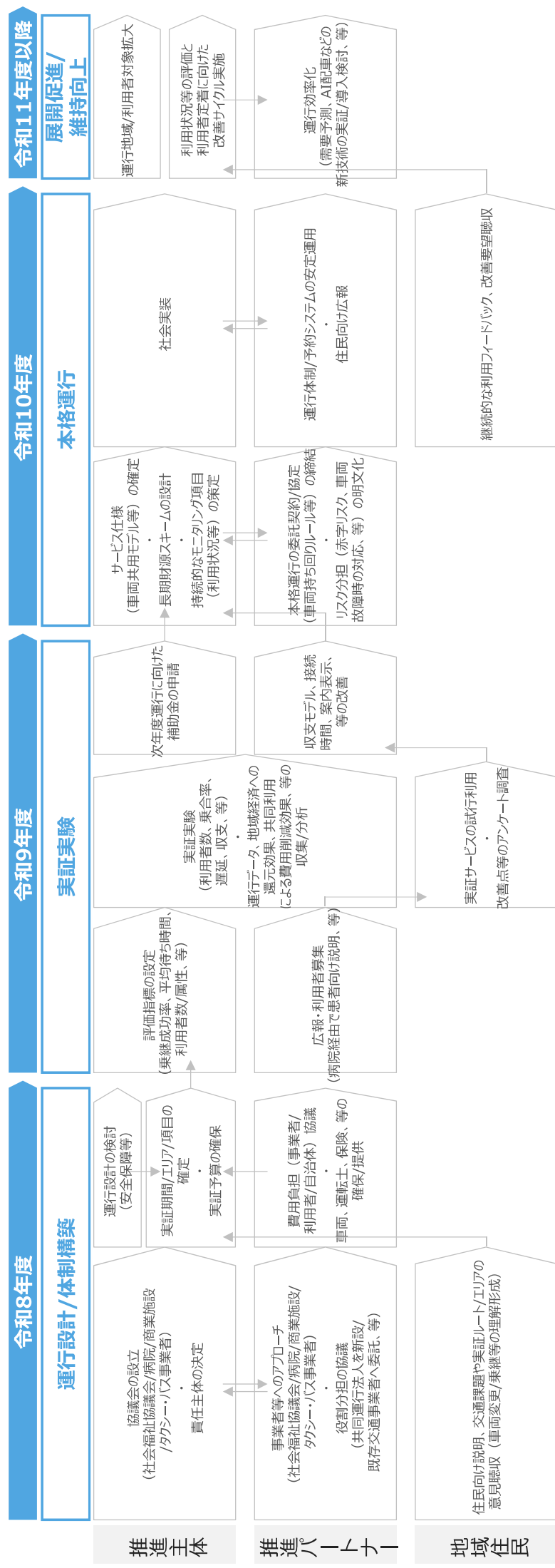
*WSIにて検討されたサービス設計/ロードマップ案を基に作成



検討された交通サービス案：ロードマップ

- ① 結節点の強化
- ② 用途横断
- ③ 新サービスの導入

社会福祉協議会/病院/商業施設/交通事業者等と連携しながら令和9年度に実証実験、令和10年度に本格運行、令和11年度以降に展開促進/維持向上を目指す



*WSIにて検討されたサービス設計/ロードマップ案を基に作成



検討された交通サービス案：概念図

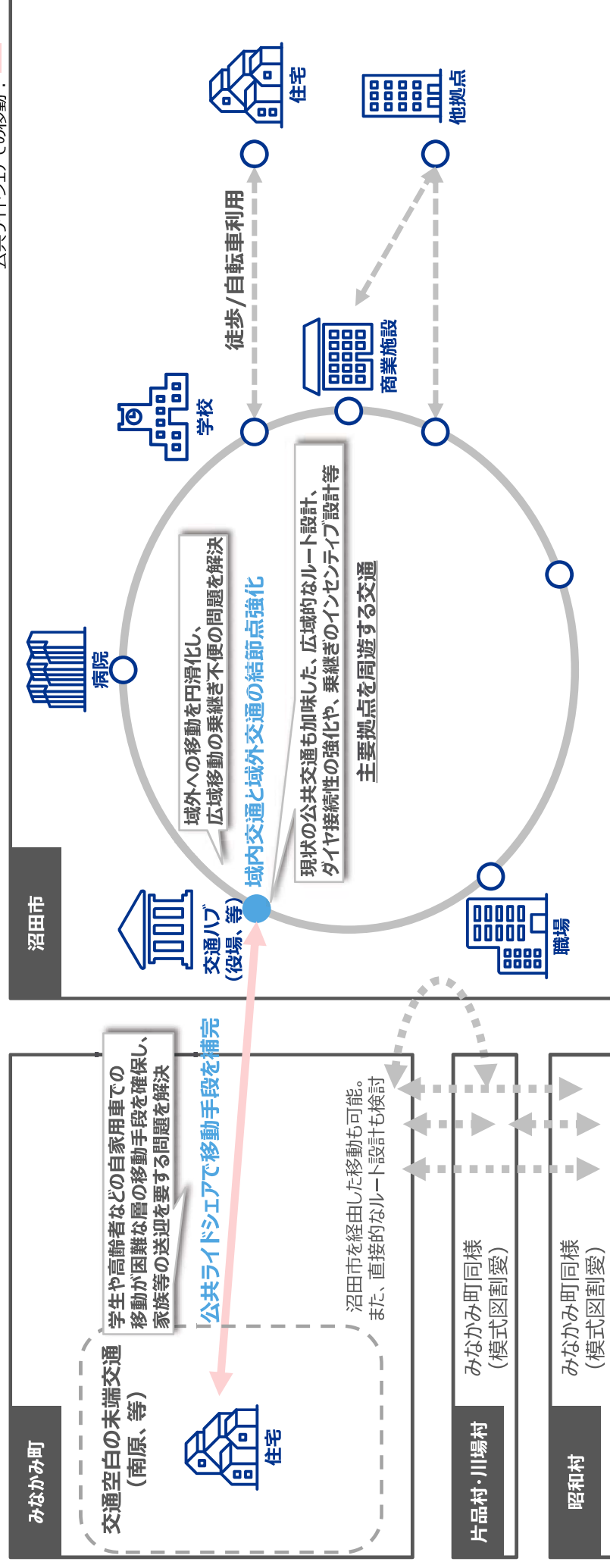
①結節点の強化

②用途横断

③新サービスの導入

交通空白地に居住する交通弱者が沼田市内の交通ハブまで移動することを支え、交通ハブから目的的地までは既存交通を利用

結節点を設けることで利便性を向上させるポイント：
デマンド交通/定時定路線での移動：
公共ライドシェアでの移動：



*WSIにて検討されたサービス設計/ロードマップ案を基に作成
*イメージのため、大幅に簡略化しています



検討された交通サービス案：サービス設計

交通空白地の交通弱者（高齢者/学生）を対象に、8:00-22:00に自宅から交通ハブまでを送迎する
公共ライドシェアサービスを自治体から委託金/補助金を受けて運行

運行設計

交通空白地の交通弱者（高齢者/学生）を対象に、8:00-22:00に自宅から交通ハブまでを送迎するライドシェアサービス

交通空白地に居住する交通弱者（高齢者/学生）

南原等の利根沼田の交通空白地から主に沼田市内の役場等の交通ハブまで

8:00-22:00（予約制）

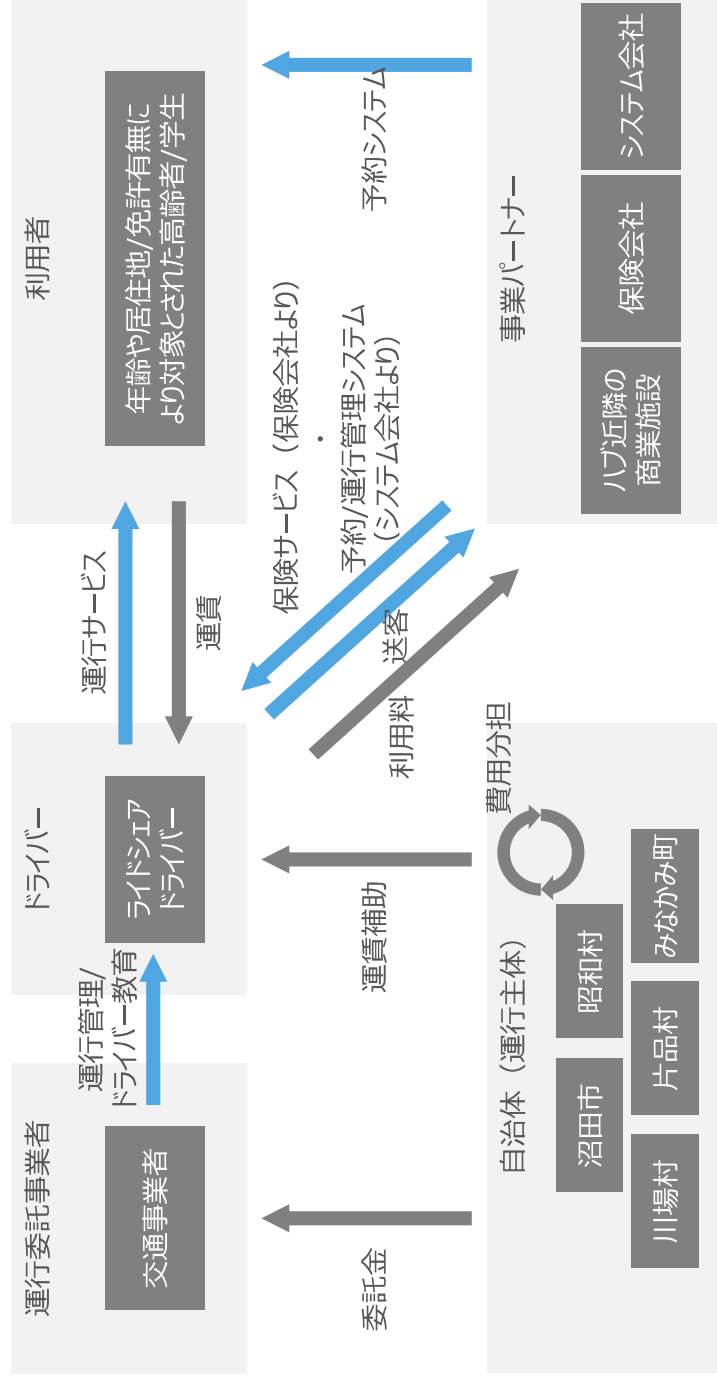
一般車両（5-8人乗り程度）

アプリやオペレーター等を用いた完全予約制

利用者
ルート
ダイヤ
車両
運行方式

運行体制

→ サービスの流れ → カネの流れ



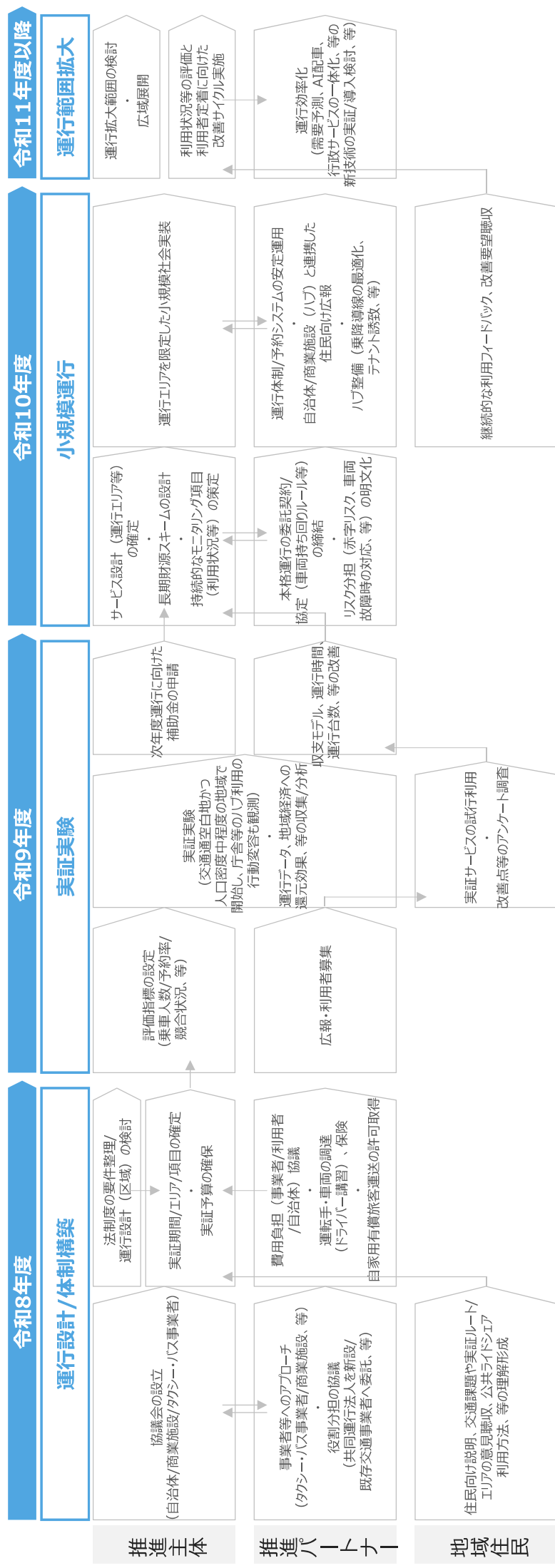
*WSIにて検討されたサービス設計/ロードマップ案を基に作成



検討された交通サービス：ロードマップ

商業施設/交通事業者等と連携しながら令和9年度に実証実験、令和10年度に小規模運行、令和11年度以降に運行範囲拡大を目指す

- ① 結節点の強化
- ② 用途横断
- ③ 新サービスの導入



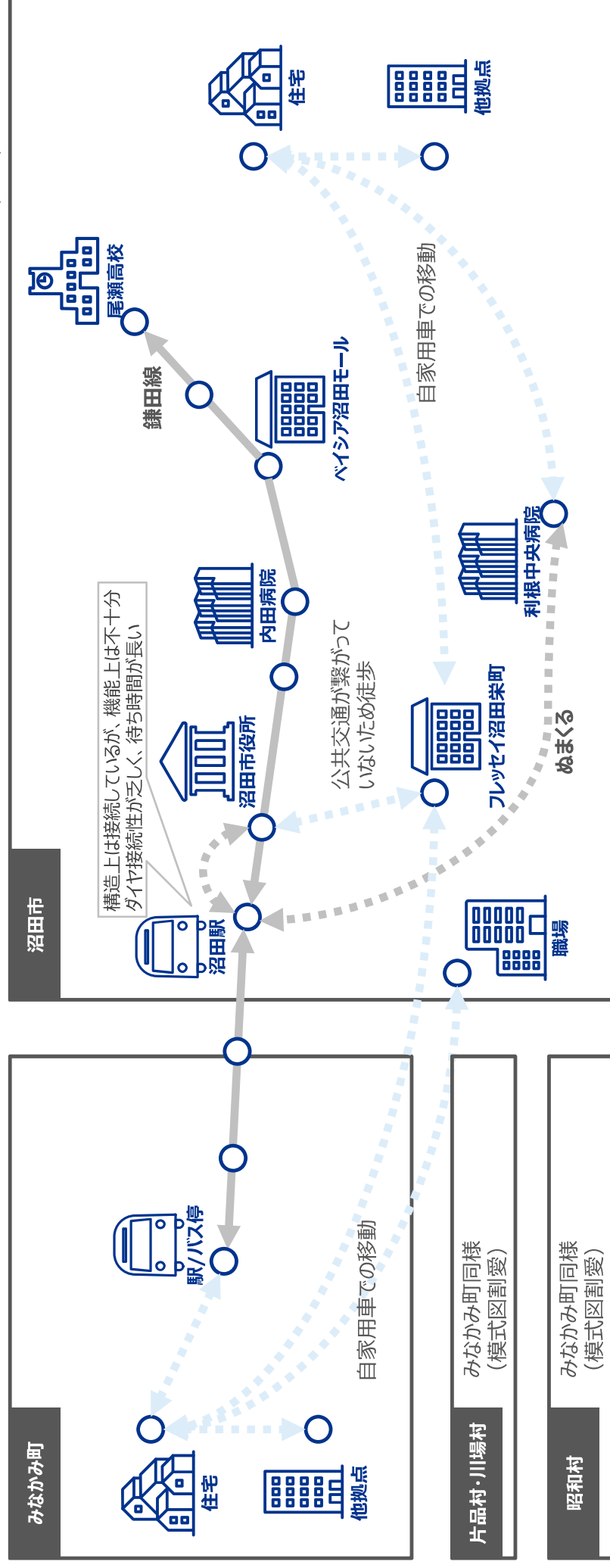
*WSIにて検討されたサービス設計/ロードマップ案を基に作成



ご参考 | 現状の交通（イメージ図）

域内においては個別に交通網が形成されているものの、住宅等までの移動手段は限定的である
域外においては結節点の接続性に乏しく、広域的な移動において乗換えに待ち時間が発生する

公共交通の移動：
デマンド交通の移動：
徒歩/自転車/自家用車の移動：



*イメージのため、大幅に簡略化しています